

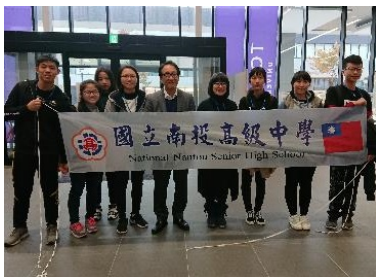
さくらサイエンスプランによる台湾の高校生を受け入れました (2018/10/23-24)

テーマ：津波、防災、減災、科学技術交流
場所：災害科学国際研究所

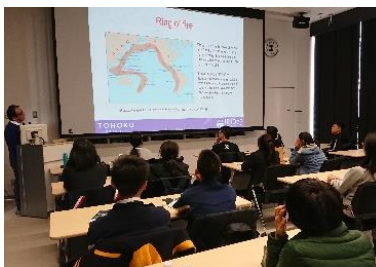
2018年10月23-24日に科学技術振興機構（JST）日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）により来日した台湾の高校生ら（国立南投高級中学，台北市立大同高級中学）を災害科学国際研究所に受け入れ，国際学術交流イベントを開催しました。本研究所の教職員（今村文彦所長，災害リスク研究部門のサッパシー・アナワット准教授，寄附研究部門の林晃大助手，広報室）が様々な訪問対応し，津波被災地を案内しました。

10月23日には台湾から生徒14名と引率教諭2名，通訳を担当する留学生の計19名が当研究所を訪問しました。1階展示スペースにて当研究所の活動を説明し，3D映像「大津波」を視聴した後，今村所長が津波および東日本大震災について特別講義を行い理解を深めました。10月24日には旧荒浜小学校、名取市閑上地区、岩沼市千年希望の丘を見学しました。高校生らは，津波防災・減災や復興に関する知見を得られたようです。

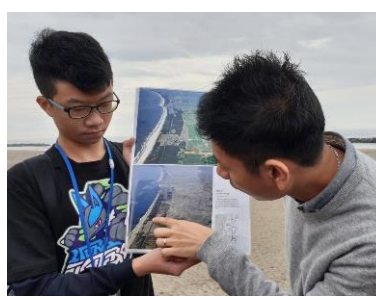
※この交流事業は、科学技術振興機構（JST）平成30年度日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）の公募交流計画（受入機関：一般財団法人東北多文化アカデミー）として実施されました。



台湾からの高校生の皆さん



ワークショップおよび活動内容見学の様子



被災地巡検の様子